

Revinage

レチノイドの植物代替品

- レチノールはアンチエイジング成分として有名ですが、皮膚への刺激性が強く、副作用としてA反応が起こる可能性があるため、使用の際には十分な注意が必要な成分です。(A反応とは、レチノール使い始めに見られる赤みや皮むけなど、一時的な炎症反応のことを指します。)
- Revinageはレチノールに見られる炎症反応が起こりづらく、光や熱に安定的です。
- 次世代レチノールとして注目されているバクチオールよりも、肌にハリや弾力性を保つことができます。
- レチノールよりも安価での提供が可能です。



1. 表示名称

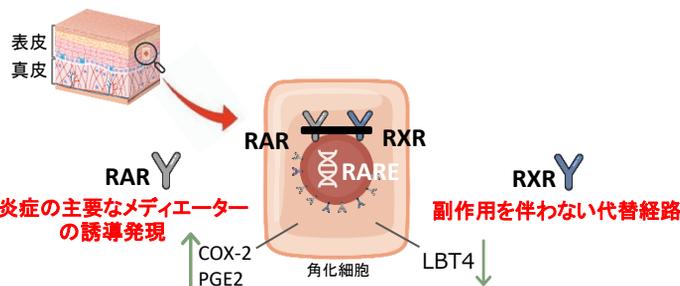
製品名	主な成分表示名称	INCI名	中文INCI
Revinage	コシロノセンダングサエキス	Bidens Pilosa Extract	三叶鬼针草 (BIDENS PILOSA) 提取物

2. Revinageの機能性



レチノールが炎症を引き起こすのはなぜ？

⇒レチノイドが作用する受容体は、炎症を伴う経路のため。



※炎症の主要なメディエーターの誘導発現

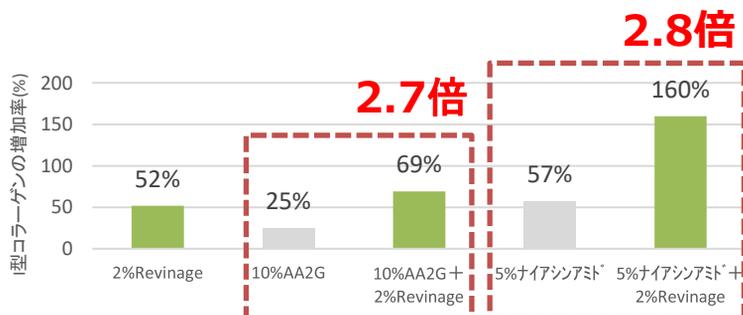
副作用を伴わない代替経路

RAR：炎症経路の重要なメディエーターの発現増加
RXR：炎症経路の重要なメディエーターの発現低下

レチノイドは炎症経路のRARにも作用するため、使用時に皮むけや痒み等の症状が出やすい。
Revinageの有効成分であるフィタン酸は、RXR受容体のみ作用するため、炎症経路を介さず、優れた機能を持つ。

他成分とのシナジー効果

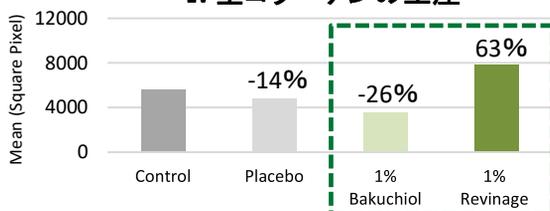
Revinageは、AA2G、ナイアシナムドとの相乗効果によって、I型コラーゲンの増加率が約3倍にも上昇する。



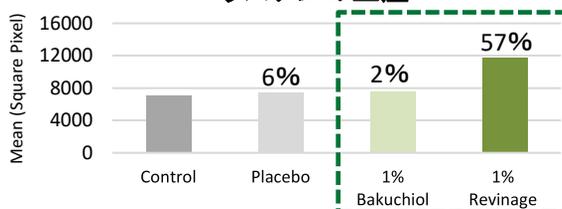
・AA2G(L-アスコルビン酸2-グルコシド)：チロシナーゼ活性阻害による美白作用
・ナイアシナムド：バリア機能修復、美白、抗シワ作用

優れたハリ・弾力性(バクチオールとの比較)

IV型コラーゲンの生産



エラスチンの生産



体内のコラーゲンやエラスチンが減少すると、？
⇒シワやたるみができやすくなる。

Revinageはバクチオールよりもハリ・弾力性に関して優れた結果を示した。

唇のひび割れ修復

In vivo 試験

試験サンプル：Revinage1%配合の口紅
対象者：ボランティア5名



2h

NMF* 92.78% ↑

4h

セラミド3 55.86% ↑

コレステロール 12.25% ↑

美容液やクリームだけでなく、口紅にRevinageを配合することで、天然保湿因子や脂質が増加した。
⇒唇に潤いを与え、ふっくらとした印象へ。

* NMF:天然保湿因子

お問い合わせ先：東亜化成株式会社 toa@toakasei.com
(本社) 大阪市中央区高麗橋3-4-10 TEL:06-6201-5131

2024年10月編集